

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			2	2	学 年	一年次
構造及び性能(シャシ)	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	阿波連 毅
			40	38	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車シャシの基礎、基本に関する機構学や構造について学習することで探究心を高め技術の向上に役立てる。
使用教科書・副教材等	三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会) 各章及びレッスンに応じたプリント(教材) 国家整備士試験過去問(副教材)
教員実務経験	ディーラーで点検、一般整備としてトランス・ミッション/アクスル/ブレーキ/サスペンション/ディファレンシャル/ホイール・タイヤ等の整備及び検査

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	レポート・提出物	20 %			%
	発表の仕方及び内容	10 %			%
	学習に対する取り組み	10 %			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	① 概要 ② 動力伝達装置 *クラッチ *トランス・ミッションM/T *プロペラ・シャフト *ファイナル・ギヤ *ドライブ・シャフト *タイヤ及びホイール	4	シャシの概要、クラッチ装置概要、名称と構造の理解を深める。	①～②
		5	トランス・ミッションの概要、名称と構造の理解を深める。	
		6	プロペラ・シャフト及びファイナル・ギヤ概要、構成名称と構造の理解を深める。	
		7	ドライブ・シャフト概要、名称と構造の理解を深める。	
		8	タイヤ&ホイールの概要、種類と名称、構造の理解を深める。	
学 年 後 期	③ アクスル及びサスペンション *シャシ・スプリング *ショック・アブソーバ スタビライザ *フロント&リヤサスペンション ④ ブレーキ装置 *油圧、エア・ブレーキ *安全装置、ABS 制動倍力装置、etc	10	スプリング、アブソーバ、スタビライザの概要、名称と種類、構造の理解を深める。	③～④
		11	フロント及びリヤサスペンション、ホイール・アライメント概要、種類と名称、構造の理解を深める。	
		12	ブレーキ概要、油圧式ブレーキ、安全装置、制動倍力装置、パーキング・ブレーキ、ABS、エア・油圧式ブレーキ、フル・エア・ブレーキ、エキゾースト・ブレーキ等の概要、種類と名称、構造の理解を深める。	
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

基本パワーポイントにて動画、シミュレータを駆使し原理、作動を理解し必要に応じて単品部品等を用意し現物確認をしながら教科書、自動車整備士過去門との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
			3	2	1	学 年	一年次
構造及び性能(エンジン)	講義	年単位時間	前期	後期		教 員	大城 一貴
			60	29		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エンジンの基礎と新機構の構造や作動についての基本に関することを理解すると同時に、特にガソリンエンジンを中心に実際に活用できる能力を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会) 二級ガソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	二輪を含む整備工場にてエンジニアとして一般、点検整備、自動車検査員を経験。車両メーカー開発員として新規プログラム業務にも携わる。

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習の取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
					%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	① エンジンの基礎 ② ガソリン・エンジン本体 ③ 潤滑装置 ④ 冷却装置 ⑤ 点火装置	4	ガソリンエンジンの概要、基礎を学習することで導入のきっかけを作り、エンジン本体を学習することで今後の原動機の構造の複雑な機構 に対応できる様にする。	①～⑤
		5		
		6	潤滑装置の概要、名称と構造及び作動の理解を深める。	
		7	冷却装置の概要、構造、作動について理解を深める。	
		8	点火装置の概要、構造、作動について理解を深める。	
学 年 後 期	⑥ 吸排気装置 ⑦ 燃料装置 ⑧ 電子制御装置 ⑨ 可変バルブ機構 ⑩ 排出ガス	10	吸排気装置の概要、構造、作動について理解を深める。 燃料装置の概要 構造、機能について理解を深める。	⑥～⑩
		11	電子制御装置の燃料噴射制御、点火時期制御、アイドル回転速度制御、スロットルバルブ開度制御及びエンジン電装品などの制御の概要、構造、作動について理解を深める。	
		12		
		1	可変バルブ機構の概要、構造、作動について理解を深める。	
		2・3	排出ガスの種類、発生原理、低減方法について理解を深める。	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
自動車力学	講義		年単位時間	2	2	学 年
		40	前期	後期	教 員	阿波連 毅
			38	実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車の軸荷重、速度と加速度、圧力と応力、仕事率などの基礎知識や応用力等、国家整備士試験に対応する学力を身につける。
使用教科書・副教材等	各章及びレッスンに応じたプリント(教材) 国家整備士試験過去問(副教材)
教員実務経験	ディーラーで点検、一般整備としてトランス・ミッション/アクスル/ブレーキ/サスペンション/ディファレンシャル/ホイール・タイヤ等の整備及び検査

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	レポート・提出物	20 %			%
	学習に対する取り組み	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第 一 期	① 第1章 ② 第2章 レッスン1(トルク) ③ 第2章 レッスン2(ばね定数) ④ 第2章 レッスン6(モーメント) ⑤ 第2章 レッスン9(ギヤ機構) ⑥ 第2章 レッスン11(圧縮比) ⑦ 第2章 レッスン13(電気)	4 ・ 5	SI単位を理解し、単位の換算等の応用力を習得。	①～⑦	
		6	単位の換算を応用とし、「速度」、「面積」、「体積」等の基礎的な問題に対応する力の習得。		
		7	国家3級整備士試験レベル(②～③)に対応できる学力の習得。		
		8	国家3級整備士試験レベル(④～⑦)に対応できる学力の習得。		
	学 年 後 期	⑧ 第2章 レッスン3(圧力) ⑨ 第2章 レッスン5(走行性能) ⑩ 第2章 レッスン6(モーメント) ⑪ 第2章 レッスン7(荷重割合1) ⑫ 第2章 レッスン8(荷重割合2) ⑬ 第2章 レッスン12 (エンジン回転速度) ⑭ 第2章 レッスン14(電気) ⑮ 2級過去問 まとめ	10	国家2級整備士試験レベル(⑧～⑩)に対応できる学力の習得。	⑧～⑮
			11 ・ 12	国家2級整備士試験レベル(⑪～⑫)に対応できる学力の習得。	
			1	国家2級整備士試験レベル(⑬～⑭)に対応できる学力の習得。	
2			国家2級整備士試験レベル(⑮)に対応できる学力の習得。		
3					

6 特記事項

計算問題を解く技巧のみではなく、機械的計算等は必要に応じてパワーポイント動画、シミュレータを駆使し作動、原理及び整備士試験との関連性を含め理解度を高めていく。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
電気電子理論	講義		2	1	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	石橋 大輔
			40	28		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近年自動車の電子化に伴い、その電気・電子の基礎及びハイブリッドや電気自動車の概要を学習し技術の向上へ役立てる。
使用教科書・副教材等	電装品構造(全国自動車整備専門学校協会) 二級ガソリン・ディーゼル自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	国の検査場で自動車検査官として検査業務などを経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	①電気の基礎	4	電気とは何かをしっかりと理解させ、今後の実習や授業をスムーズに学習できる基礎を作る。	①～⑤
	②計測	5		
	③磁気の基礎	6		
	④半導体	7	サーキットテスタの構造や電圧、電流、抵抗の計測方法について学習し理解させる。	
	⑤モータと発電機	8	モータや発電機の原理を基礎から理解させる。	
学 年 後 期	⑥バッテリー	10	バッテリーの目的、構成部品の構造、機能について理解させる。	⑥～⑩
	⑦点火装置・予熱装置	11	点火装置・予熱装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。	
	⑧始動装置	12	始動装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。リダクション・スタータの減速機構、緩衝装置、マグネットスイッチ、エンジンの始動特性、スタータの特性について理解させる。	
	⑨充電装置	1	充電装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。オルタネータの三相交流、整流、ボルテージレギュレータの働き及び充電制御機能について理解させる。	
	⑩灯火装置	2 ・ 3	灯火装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。	

6 特記事項

パワーポイントにて原理、作動を理解させる。必要に応じて構成部品を用意し、現物確認をしながら教科書と併せて理解度を高める。自動車整備士過去問題との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			1	0	学 年	一年次
燃料、潤滑剤油脂	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	石橋 大輔
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	ガソリン、軽油、潤滑油、作動油の性質及び規格が理解できる。
使用教科書・副教材等	内燃機関、燃料・油脂(全国自動車大学校・整備専門学校協会) 二級ガソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会) 二級ジーゼル自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	国の検査場で自動車検査官として検査業務などを経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	40 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① 燃料の概要	4 燃料の概要について理解を広げる	①～⑨
		② 石油精製法	ガソリン基材について理解を深める	
		③ ガソリンの性状と規格	5 ガソリンのオクタン価、規格、性状の理解を深める	
		④ 軽油の性状と規格	軽油のセタン価、規格、性状の理解を深める	
		⑤ LPガスの性状と規格	6 LPガスのオクタン価、性状の理解を深める	
	後 期	⑥ 潤滑剤の概要	7 潤滑剤の概要について理解を広げる	
		⑦ 摩擦力と潤滑作用	潤滑作用について理解を深める	
		⑧ 潤滑油の製法と性状	グリースの種類、性状の理解を深める	
		⑨ 作動油の概要	8 作動油の種類について理解を深める	
		10		
		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
自動車材料	講義		0	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	大城 一貴
			0	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	一つ一つの部品の材料の概要、種類、特色、名称等の基本を理解する事で、部品の集合体である自動車での、使用例など学習し、シャシ・エンジン・ボディなどの興味と理解を深める。
使用教科書・副教材等	自動車材料(全国自動車大学校、整備専門学校協会) 自動車工学(一般社団法人 日本自動車整備振興連合会)
教員実務経験	二輪を含む整備工場にてエンジニアとして一般、点検整備、自動車検査員を経験。車両メーカー開発員として新規プログラム業務にも携わる。

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
学 年	①金属材料の性質 ②鉄鋼材料 ③非鉄金属材料 ④焼結合金 ⑤非金属材料 ⑥軽量化構造の材料	10	金属材料の性質と試験法、検査法の概要を学習する。	①～⑥
		11	鉄鋼材料の種類や用途、性質を学習し、理解を深める。	
		12	非鉄金属の種類、性質、焼結合金の概要を学習する。	
		1	非金属概要、種類、自動車への使用例など学習し、理解を深める。	
		2 ・ 3	自動車構造を学習し、部位による材料の違いなど理解を深める。	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
製図	講義		1	0	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	大城 一貴
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	三角定規、コンパス等用具を正しく使用できる。 三角法による投影を理解して、点、直線、平面を表現できる。 正投影図及び等角図が描ける。
使用教科書・副教材等	基礎製図 練習ノート(実教出版)
教員実務経験	二輪を含む整備工場にてエンジニアとして一般、点検整備、自動車検査員を経験。車両メーカー開発員として新規プログラム業務にも携わる。

2 追試験基準

前期	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	提出物(練習ノート)	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	①練習ノート 利用方法 ②練習ノート 解説1 文字と記号 ③練習ノート 解説2 線 ④練習ノート 解説3 投影図 寸法記入 ⑤練習ノート 解説4、5 製作図 ⑥応用課題	4	製図の概要について理解を深める。 製図用具の使い方を覚える。	⑥
		5	図面の大きさ及び様式について理解を深める。 製図で使用される文字と記号について理解を深める。	
		6	線の種類と用法について理解を深める。	
		7	投影法とその種類の理解を深める。	
		8	製作図を描けるようになり、線の意味、記号の意味を理解する。	
		後 期	10	
学 年		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
エンジン整備法	講義		0	1	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	大城 一貴
			0	28		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エンジンの整備方法を理論的に学習し、測定・検査機器の使用方法を理解することで安全で確実な整備ができる知識を習得している。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会) 二級ガソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	二輪を含む整備工場にてエンジニアとして一般、点検整備、自動車検査員を経験。車両メーカー開発員として新規プログラム業務にも携わる。

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習の取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
学 年	① 自動車整備の目的 ② エンジン本体の整備 ③ 潤滑装置の整備 ④ 冷却装置の整備 ⑤ 燃料装置の整備 ⑥ 吸排気装置の整備 ⑦ 点火装置の整備 ⑧ 電子制御装置の整備	10	予防整備・故障整備の理解を深める。 エンジン本体の点検・整備の知識を習得する。	①～⑧
		11	潤滑装置の点検・整備の知識を習得する。 冷却装置の点検・整備の知識を習得する。	
		12	燃料装置の点検・整備の知識を習得する。 吸排気装置の点検・整備の知識を習得する。	
		1・ 2 ・ 3	点火装置の点検・整備の知識を習得する。 電子制御装置の点検・整備の知識を習得する。	

6 特記事項

単品部品教室に用意し現物を確認、関連の実習を絡めて理解を深める

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
シャシ整備法	講義	0	2	1	学 年	一年次	
		前期	後期		教 員	阿波連 毅	
		0	29		実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	シャシの点検・整備に当たり、その構造・機能を理解し、適切な工具や計器を使用して正しい作業手順を習得することで技術の向上に役立てる
使用教科書・副教材等	三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	ディーラーで点検、一般整備としてトランス・ミッション/アクスル/ブレーキ/サスペンション/ディファレンシャル/ホイール・タイヤ等の整備及び検査

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	課題・学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
学 年	①動力伝達装置 ②アクスル及びサスペンション ③ステアリング装置 ④ホイール及びタイヤ ⑤ホイールアライメント ⑥ブレーキ装置 ⑦フレーム及びボデー	10	動力伝達装置の点検・修正・分解組み付けを理解し学習する。	①～⑦
		11	スプリング、ショックアブソーバ、ステアリング装置の点検・修正・分解組み付けを理解し学習する。	
		12	タイヤの編摩耗などからアライメントの修正方法などを理解する。	
		1	ブレーキ本体や各付属部品の点検・修正・分解組み付けを理解し学習する。	
		2	定期的な保守管理を含めた点検・整備方法について理解し学習する。	
		3		

6 特記事項

単品部品を用意し、現物を確認しさらに、レポートや教科書との関連の部分を絡めて理解を深める。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			0	1	学 年	一年次
電装整備法	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	石橋 大輔
			0	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	電装品の点検整備方法を理論的に学習し、測定・検査機器の使用方法を理解することで安全で確実な故障探究と整備ができる知識を習得する。
使用教科書・副教材等	二級ガソリン・ディーゼル自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連合会) 二級・三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	国の検査場で自動車検査官として検査業務などを経験

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
					%
					%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
学 年 後 期	①バッテリー	10	電解液の液量の調整及び比重の測定方法を理解させる。 充電及び充電方法の種類を学習し、充電中の電圧と比重の変化及び充電方法での注意事項を理解させる。	①～⑤
	②点火装置・予熱装置	11	イグニッション・コイル、スパーク・プラグの点検方法について理解させる。グロー・プラグの点検方法について理解させる。	
	③始動装置	12	マグネット・スイッチ、スタータ本体の点検方法と性能テストについて理解させる。	
	④充電装置	1	オルタネータの点検及び性能試験を理解させる。	
	⑤灯火装置	2	灯火装置の故障の原因と、配線の点検について理解させる。 ・ヘッド・ランプの点検・調整について理解させる。 3 各種ランプの作動と点検を理解させる。	

6 特記事項

パワーポイント動画にて整備機器の使用方法を理解させる。必要に応じて単品部品とテストを用意し、実際に現物を点検しながら教科書と併せて理解度を高める。自動車整備士過去問題との関連を含め理解させる。
--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
機器取り扱い	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	石橋 大輔
			20	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	整備作業時の正しい工具の選定及び、正しい工具の使い方を習得させる。更に自動車の点検、調整、測定、検査用機器、等の取り扱いを習得させ、自動車の整備、故障探究、自動車の検査時の良否の判定に活用させる。
使用教科書・副教材等	自動車整備工具・機器(全国自動車大学校、整備専門学校協会)
教員実務経験	国の検査場で自動車検査官として検査業務などを経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	① 概要	4	概要を踏まえ、必要性和安全性について知る。	①～⑤
	② 工具	5	基本的な工具の名前と使い方を習得することによって作業性の視野を広げる。	
	③ 作業用機器	6	電気、油圧、エア・ツールの取り扱い方法を熟知し、その危険性と安全な作業方法を習得する。	
	④ エンジン点検・調整機器	7	エンジンに対しての故障診断、計測、修正で用いられる機器について習得する。	
	⑤ 電気装置・調整機器	8	電気装置に対しての故障診断、計測、修正で用いられる機器について習得する。	
学 年 後 期	⑥ 車両点検・調整機器	10	車両(シャシ)に対して故障診断、計測、修正で用いられる機器について習得する。	⑥～⑨
	⑦ 自動車検査用機器	11	主に検査法を元に行われる車両を検査する機器について習得する。	
	⑧ 車体整備用機器	12		
	⑨ その他機器	1	主に板金整備等に用いられる車体を修復する機器について習得する。	
		2・3	その他機器について習得する。	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			1	0	学 年	一年次
安全衛生	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	大城 一貴
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	労働災害に対する認識を深め、災害防止と安全に対する知識、有事の際の行動や対処方法などを習熟させる。
使用教科書・副教材等	安全衛生(能力開発機構、職業能力開発総合大学校)
教員実務経験	二輪を含む整備工場にてエンジニアとして一般、点検整備、自動車検査員を経験。車両メーカー開発員として新規プログラム業務にも携わる。

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
前 期	①第1章 総説 安全衛生の意義、取り組み ②第2章 災害の原因と傾向 ③第3章 安全一般 ④第4章 手工具の取り扱いに関する安全管理 ⑤第5章 動力機械に関する安全管理	4	産業安全・労働衛生の意義、我が国における労働災害の現状、労働災害防止運動の推進について。	①～⑥
		5	産業別・規模別の災害発生状況。業務上疾病、災害の傾向について。	
		6	作業時の服装、保護具、4S活動について。	
		7	手工具を使用する前の点検・安全管理(使用后)について。	
		8	機械の配置と安全通路の確保。工作機械の災害防止・安全作業について。	
		10		
後 期		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			3	3	学 年	一年次
測定・電装実習	実習	年単位時間	前期	後期	教 員	大城・石橋
			60	57	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	学科で学習した内容を実習にて実物を見て、実際に作業することにより理解を深める。作業要領を習得し実践に役立つ技術を習得する。
使用教科書・副教材等	二級・三級ガソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会) 二級・三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	・整備工場にてエンジニアとして一般、点検整備、自動車検査員を経験。 ・陸運局にて、検査官業務に携わる。

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	①測定基礎実習 ・測定機器の用途、取扱、種類 ②実測定 ・ノギス、マイクロメータ、ゲージ ③実車測定 ・単体エンジン測定。考査試験	4	①測定基礎実習 ・前期授業内容の周知、及び各種測定機器の用途などを習熟。	①～③
		5	②実測定 ・ノギスを使用した測定の習熟。	
		6	②実測定 ・マイクロメータを使用した測定の習熟。	
		7	②実測定 ・シリンダゲージを使用した測定の習熟。	
		8	③実車測定 ・単体エンジンを分解し測定物とし、②で習熟した内容を応用す	
学 年 後 期	④基本電子 ・電子理論の習熟 ⑤各種電子装置応用例 ・電子工作キット(基礎) ⑥電気回路 ・電子工作キット(応用)	10	④基本電子 ・電子工作キットを使用して、各種実験を行い電気を理解する。	②～⑤
		11		
		12	⑤各種電子装置応用例 ・電子工作キットを使用して、電子装置の理解を深める。	
		1		
		2	⑤電気回路 ・電子工作キットを使用して、回路を作成。 自動車への応用事例についても理解を深める。	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			14	14	学 年	一年次
基礎実習	実習	年単位時間	前期	後期	教 員	大城・石橋・阿波連
			280	301	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	学科で学習した内容を実習にて実物を見て、実際に作業することにより理解を深める。 作業要領を習得し実践に役立つ技術を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会) 三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検・車検整備、 自動車検査員の経験・自動車技術総合機構にて自動車検査官の経験

2 追試験基準

前期	実技試験 50%未満
後期	実技試験 50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	実技試験	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	4	①文鎮、キャリパ・ピストン・コンプレッサを作成しタップ、ダイス、ボール盤等の使用方法を習得する。	①～⑤
		5	②リフト、ジャッキ、基本工具、特殊工具等(四輪と二輪)の使用方法を習得する。	
		6	③エンジンの脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。2ストロークエンジン(二輪)と4ストロークエンジンの構造の違いを理解する。	
		7	④M/Tの脱着、クラッチの脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。	
		8	⑤M/Tの分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。ディファレンシャルの脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。	
	後 期	10	⑥エンジン冷却装置・潤滑装置の各部品を脱着し仕組みを理解する。	⑥～⑭
		11	⑦ステアリング装置の脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。	
		12	⑧ホイール・アライメントの測定、調整を行い作業方法を理解する。	
		1	⑨サスペンション脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。	
		2	⑩就職実技試験に対応できる点検、取替作業等を習得する。	
期	1	⑪エンジン燃料装置の各部品を脱着し仕組み作業方法を理解する。		
	2	⑫パワー・ウィンド、ワイパー装置を脱着し仕組み作業方法を理解する。		
	3	⑬ブレーキの脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。 ⑭1年点検の点検項目の確認、点検方法を理解し、各自点検順序を工夫し実践に役立つ技術を習得する。		
	到達度試験	3	到達度試験	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	年単位時間	前期・後期	学 科	自動車整備科
企業研修	実習		35	学 年	一年次
		教員		石橋 大輔	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、専攻分野の実務に必要となる知識、技術及び技能の修得を目的とする
---------	---

2 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	研修成果(報告書)	70 %
	研修活動への取り組み	30 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	①各専攻分野において学院及び企業との協議の上で決定する。	4	企業研修において研修学生が専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を修得するための職業教育及び指導等を行う。	①
		5		
		6		
		7		
		8		
		10		
		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

詳細事項に関しては、学院及び企業とで「職業教育に係る事業連携協定書」を締結し決定する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
コンピュータ概論	演習		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			20	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	IT化社会といわれる現代のビジネス社会や日常生活において、覚えておく と便利なExcelの基本操作を理解します。文書作成から基礎関数などを習得し、 様々なビジネスシーンでの活用を目標とします。
使用教科書・副教材等	Excel2019 クイックマスター基礎編 情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	評価の50%未満は追加課題
後期	評価の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	① Excel基本操作	4	Excel画面構成を理解し、基本操作を覚える基本操作	情報処理 模擬問題
	② Excel表・グラフ作成	5	データの編集方法を理解する	
	③ Excel関数	6	表の編集	
	④ Excel実技演習	7	ブックの印刷(PDF保存・編集)	
	⑤ 情報処理技能検定問題 (4級)	8	情報処理技能検定4級模擬問題	
学 年 後 期	⑦ Excel関数	10	グラフと図形の作成	情報処理 模擬問題
	⑧ Excel関数・データベース	11	ブックの利用と管理	
	⑨ 情報処理技能検定問題 (3級)	12	関数を覚える	
	⑩ 情報処理技能検定問題 (準2級)	1	データベース機能の活用方法を習得	
		2	情報処理技能検定3級模擬問題	
	3	情報処理技能検定準2級模擬問題		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
就職実務 I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			20	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動、採用に関する書類作成、試験対策を周知。 ・過去求人データ及び、企業研究方法の周知。 ・企業とのマッチング精査、その後希望職種に応募。
使用教科書・副教材等	【前期】これだけは知っておきたい!面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	成績評価の50%未満
後期	成績評価の50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲	
第 一 学 年	前 期	自己紹介(学生情報収集)	4	1.個人の能動的意欲を促進させる 自己紹介、希望職種ヒアリング 就職活動前準備	前期試験
		【面接対策&ビジネスマナー】 面接の重要性と 自己PRの作成 履歴書作成 企業説明会	5	社会人としての基本的ビジネスマナーについて学習	
			6	2.企業研究の周知 希望条件を具体化し、それに沿った研究の進め方を周知	
			7	3.履歴書作成 作成方法の周知。完成品の検閲、修正。	
			8	4.採用試験方法の周知及びインターン先選定。 例年の採用試験傾向を周知。併せてインターン先の選定。	
	後 期	【就職活動・企業研究】 企業説明会 インターンシップ 採用試験受験 (採用試験対策)	10	・インターンシップ 実際の職場環境を体感し、企業研究を更に深める。	レポート 確認テスト
			11	・企業説明会 授業枠を使用して企業を誘致、学内にて説明会を開催。	
			12	採用実績のある整備職を募集する企業が主体となるが、 業界関係職種なども含めた幅広い情報をレポートに納める。	
1			・就職試験対策 応募企業の選定後、採用試験の受験を斡旋 並行して採用試験に関する受験対策授業を実施 (面接所作、一般常識などの筆記対策、履歴書作成など)		
		2			
		3			

6 特記事項

『面接対策&ビジネスマナー』を使用し、社会人の基本的マナーを前期にて併用学習する。 『就職試験サポートドリル』を使用し、基礎学力の向上、一般教養を後期にて併用学習する。
